

新しい自分発見記

私には留年経験があり、現在に至るまでに紆余曲折を経ています。当時は、回り道したことに対し後悔の念が強くなり自分を責めることが多くありましたが、休学期間中の出来事があったからこそ今の自分があると前向きに思っています。以下、私が留年に至った経緯や休学期間中の出来事を記したいと思います。

【留年の経緯】

私は、後期臨床実習の単位が取得できず留年することになりました。日々患者様と接している内に、患者様と向き合うことの原因が分からなくなってしまうことで実習に身が入らず、少し体調が悪いだけで実習を休んでしまう、実習日誌や担当させて頂いている患者様のケースレポートの提出を行わないなど、実習生として臨むべき態度に大きな問題がありました。そのため実習を完遂することができず、先生との面談の中で、「言語聴覚士になることを諦め、別の道を探す」という新たな方向性についても検討することになりました。その時私は、肩の荷が下りたと同時に先の見えない不安も感じました。

【休学の決定】

先生との面談以降、自分の本当にやりたいことを見つけるため、ハローワークで職探しや以前から興味があったアパレルの仕事を経験してみましたが、自分の本当にやりたいことを見つけられる気が全くしませんでした。そんな中で私は、私自身がやりたいと思って始めた「言語聴覚士を目指すこと」を途中で投げ出してしまうのは本当に正しいことなのか考えるようになりました。しかし、考えても結局答えは見つからず、明確な理由が持てなくとも続けてみることにしました。

【休学期間中の取り組み】

私は休学期間を有意義なものにするため、障害を持たれたご高齢の方とできるだけ多く接し、私自身がどのように関わっていけるのか考える時間に当てることに決め、学内では、付帯施設の「ことばと聴こえの支援室さくら」で先生方のセッションの見学やセッションの補助を行ってレポートを提出したり、外部の施設でヘルパーの資格を取得し、デイサービス・訪問ヘルパーのアルバイトを始める、デイケアのボランティアにてレクを実施するという活動を半年間行いました。この期間中は一意専心に取り組み、とても内容の濃い日々を過ごしていたと思います。

半年間の取り組みを通して、対象の方の障害像の把握や症状に対してどのようにアプローチすればよいのか考え、その度に試行錯誤を繰り返す機会が多くありました。私は、学校生活を振り返ると、講義や学内演習のいずれも考えを深めずに次々にこなす、「なんとなくやっている状態」に陥っていましたが、この時は考えることや勉強することの楽しさを感じることができました。自主性を持ち、脇目も振らずに取り組みすることで新しい自分に出会えたのではないかと思います。臨床実習中にわからなくなった、患者様と向き合うことの原因の明確な答えは、私自身の本当にやりたいことを見つけることと同様見つかりませんが、代わりに新しい自分を見つけ「最後までやり抜くことが出来そう」と思えたことが大きな支えとなりました。

【最後に】

この体験を通して、あれこれ頭の中で考えるだけでなく、行動に移し、体験していく中で今まで気付かなかった自分に出会い、新しい自分を拠り所としていくことが重要であると感じました。

4月から言語聴覚士を目指して新生活を始める方は、日々の学習や学内外の臨床実習を通して、目指している言語聴覚士の仕事が自分には向いていないのではないかと悩むことも出てくると思います。そういう時は明確な理由が持てなくても行動に移し、取り組みの中でもがいてみることをお勧めします。